

これまでの取組経緯について



# これまでの取組状況

## これまでの取組

2014年(平成26年)2月	・ <u>石狩川幌向地区自然再生ワークショップ 設立</u>
2014年(平成26年)3月	・ <u>「石狩川下流幌向地区自然再生実施計画書」策定</u>
2015年(平成27年)	・遮水盛土の整備に向けた試験について効果検証を実施
2016年(平成28年)10月	・南幌町ふるさと物産館で <u>「幌向湿原フォーラム」開催</u>
2016年(平成28年)12月	・ <u>遮水整備を施工</u> ・湿生植物の導入方法などを検討。
2017年(平成29年)10月	・ <u>幌向再生地に湿生植物の導入を開始</u> ・ワークショップに「湿原再生ミーティング」、「利活用ミーティング」を設置。 ・「幌向湿原めぐりフットパス」を開催（以降、地元NPO団体と連携して毎年開催）
2018年(平成30年)	・ <u>ミズゴケの導入試験を開始</u> ・ミズゴケ里親制度を地域活動と連携して実施 ・南幌町ふれあい祭り、地元若手農家グループ主催イベントでの事業PR(以降、毎年実施) ・NPO法人ふらっと南幌との協働企画「幌向湿原めぐりフットパス」開催(以降、毎年実施)
2019年(令和元年)	・外来種駆除活動を実施。(以降、地元NPO団体と連携して毎年開催)
2020年(令和2年)	・北海道湿地フォーラムへの参加
2021年(令和3年)	・「地域連携ワーキング」の取組を開始。 <u>南幌町地域おこし協力隊が参加。</u>
2022年(令和4年)	・ <u>幌向小学校と連携し、「幌向」をテーマとした環境学習を実施。</u> (以降、毎年実施) ・ <u>ヤチヤナギを使った商品開発の実施。(ヤチヤナギビールの発売)</u>
2023年(令和5年)	・ <u>ヤチヤナギを使った商品開発(ソーセージ、バスソルトの制作)</u>
2024年(令和6年)	・ <u>ヤチヤナギを使った商品開発(ジンの制作)</u> ・ヤチヤナギの栽培地を整備 ・幌向地区自然再生地の木道整備を実施
2025年(令和7年)	・ <u>幌向地区自然再生地の利活用に向けた整備を実施中。</u> ・ <u>幌向地区自然再生事業の完了年。</u>



幌向湿原フォーラム開催(H26.10月)



幌向湿原めぐりふっとパス(H30.9月)



外来種駆除イベント(R1.8月)



ヤチヤナギビールの開発(R2)

## ワークショップの設立・自然再生実施計画書の策定（H26～継続中）

- 平成26年度に「石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップ」を設立し、[これまで8回のワークショップを開催](#)。（本日が9回目）
- 第2回ワークショップ（H26. 3. 24）では「石狩川下流幌向地区自然再生実施計画書」を策定。

### 《幌向地区における自然再生の目標》

#### ～ボッグを中心とした湿原環境の再生～

##### ●湿原環境の形成

- ▣ほろむい七草をはじめとする湿生植物を育むボッグを中心とした湿原環境を形成する。

#### ～地域社会への貢献～

##### ●地域社会の学びの場の形成

- ▣自然を育む場を形成し、人が自然と歴史を学ぶ。

##### ●自然と共生する地域社会の形成

- ▣自然の価値をふるさとの資源として共有・活用する。

## 石狩川下流幌向地区 自然再生実施計画書

ほろむい原野の原風景をめざして

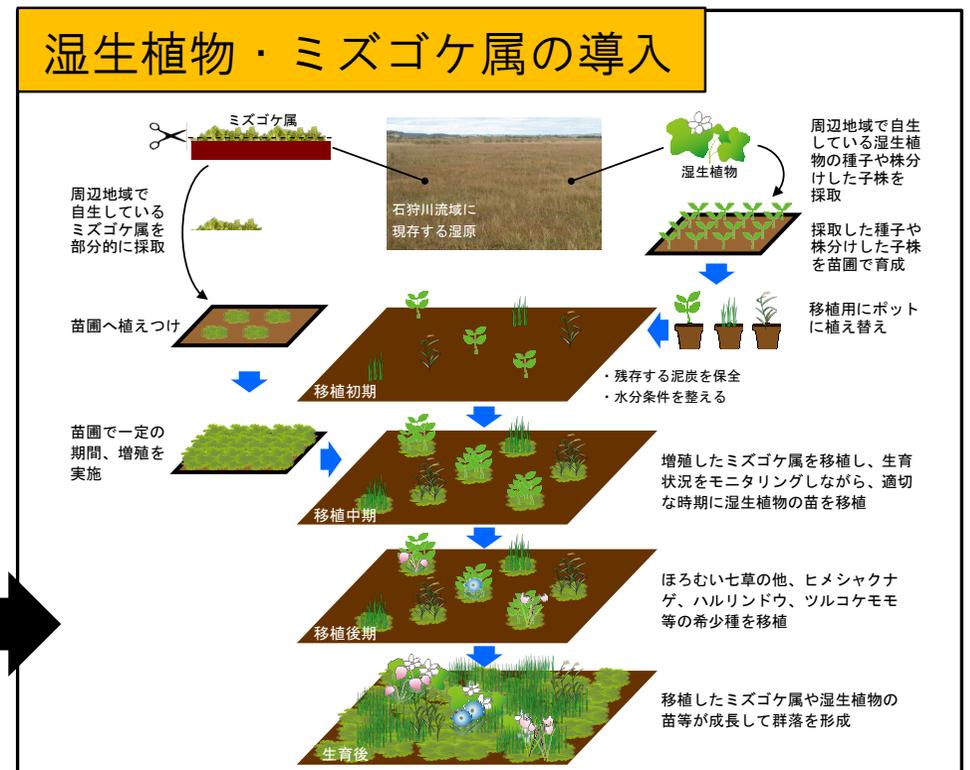
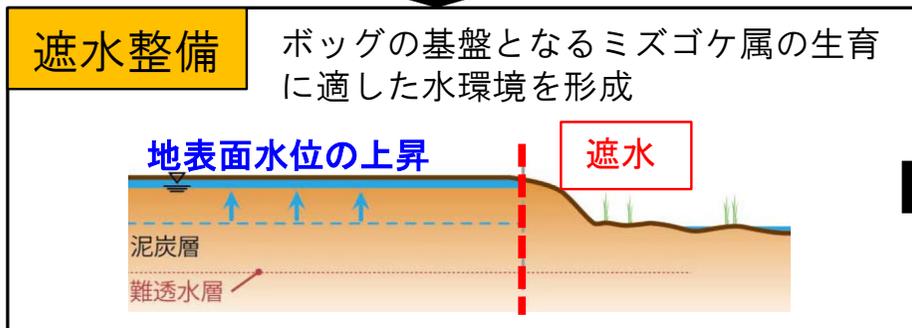


平成26年3月

石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップ

## 幌向自然再生の実施手順

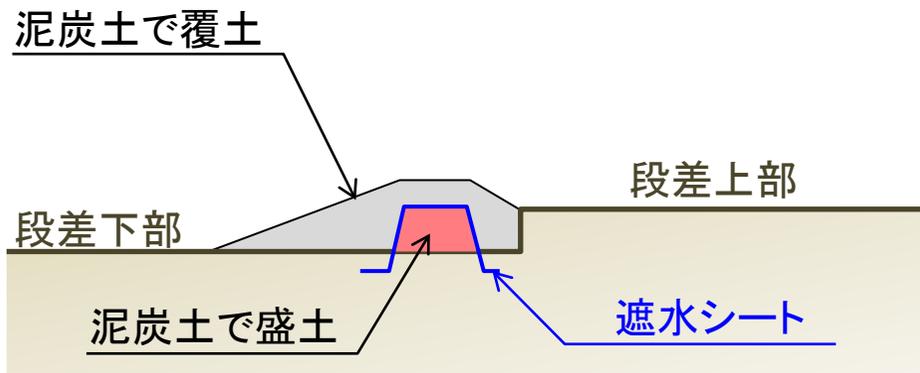
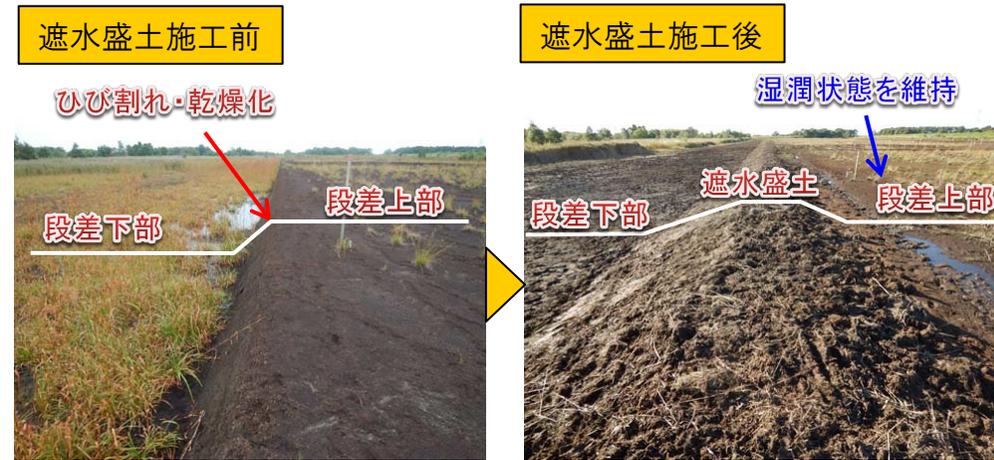
幌向地区自然再生は、泥炭層が露出して分布している夕張川高水敷を対象とし、自然再生の目標である『ボグを中心とした湿原環境の再生』を図るため、**泥炭層露出箇所に遮水整備**を行い、ボグの基盤となる水環境を形成したうえで、**湿生植物・ミズゴケ属の導入**を行うものである。



# 遮水整備の実施

## ボグが定着しやすい物理環境の整備（遮水盛土整備：H28）

- 遮水整備前の夕張川高水敷に残っている泥炭は、段差部分から水分のしみ出しが見られ、泥炭表面の乾燥・分解が進行していた。
- 試験施工を踏まえ、平成28年度に段差部分に遮水盛土本施工を実施。



# 遮水整備の実施

- 幌向再生地の地形条件は、下流堤防側から上流河道側に向けて標高が低くなっているが、河川縦断方向の表層地下水位は、段差上段では下流側が高く、上流側が低くなっている。
- 再生地の表層地下水位の上昇を目的として、段差の縦断方向と再生地上流横断方向に遮水盛土を整備した。

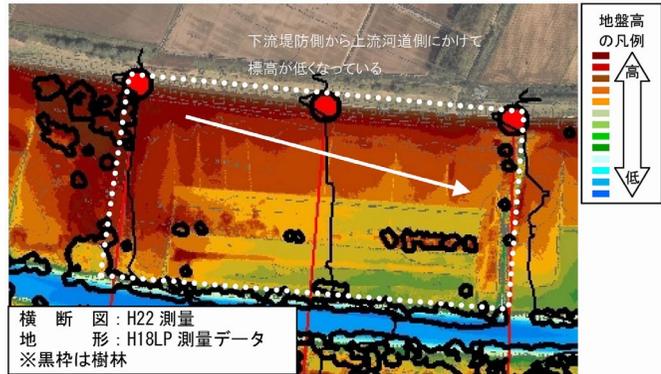


図. 幌向再生地の地盤高



図. 遮水盛土整備範囲

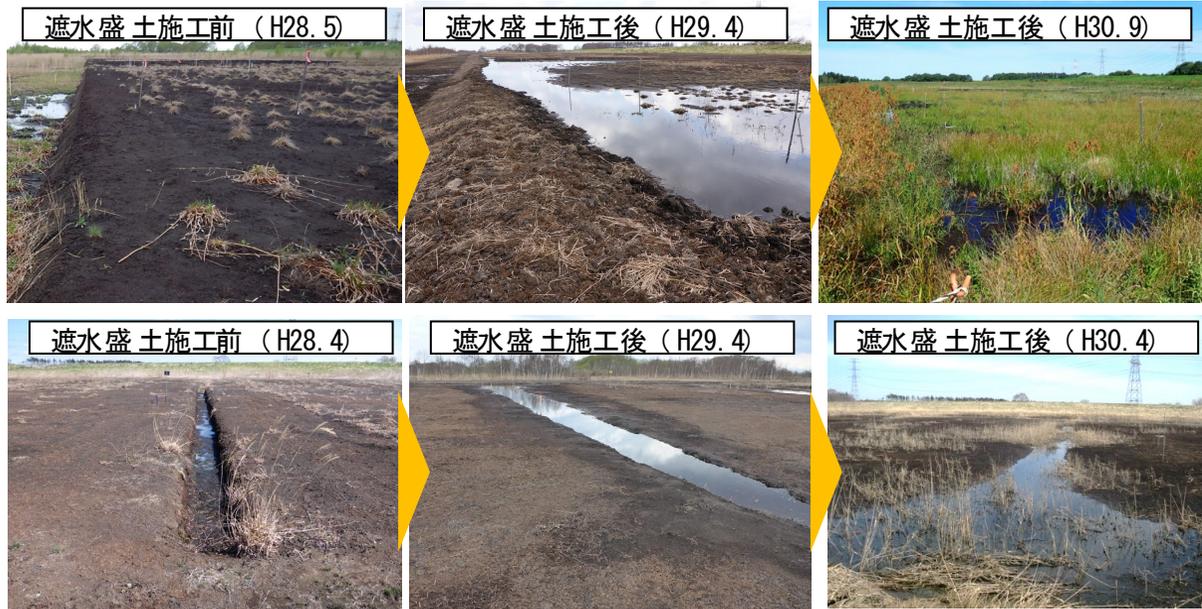


図. 遮水整備前後の状況比較

遮水整備を行ったことで表層地下水位は高い状態で維持されている。

# 植生面積の変遷

- 幌向地区自然再生事業の開始から9年が経過し、再生地内の植物の生育面積は11,500㎡程度まで広がった。
- 再生地に自生したオオイヌノハナヒゲや、導入したヤチヤナギやワタスゲ等の湿生植物が定着しつつある。

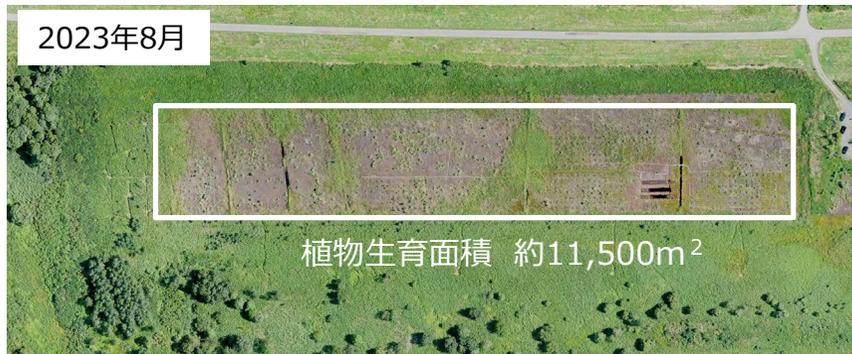
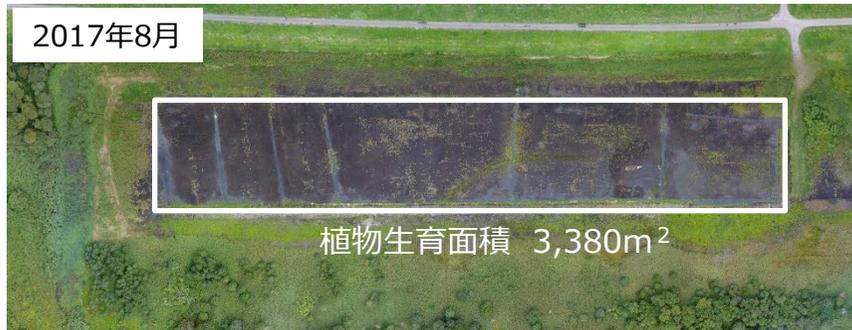


図. 幌向再生地の経年変化

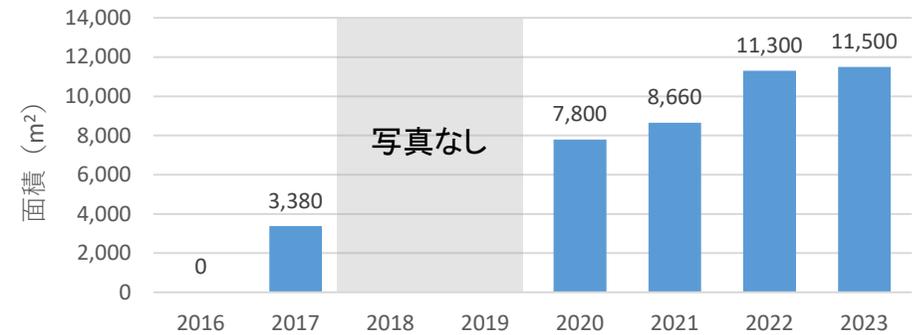


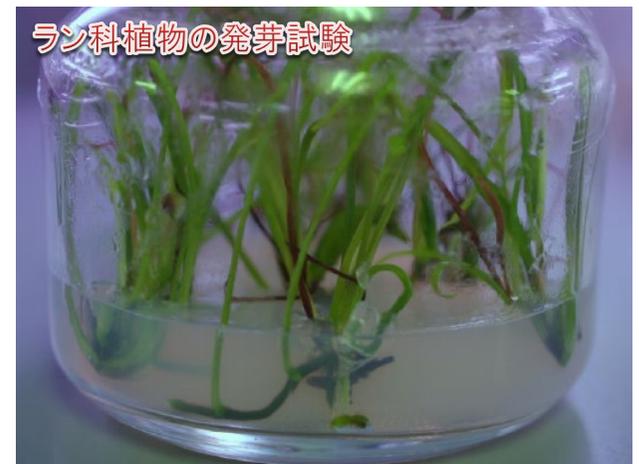
図. 遮水後の植生面積



導入後の生育状況確認

# 湿生植物の導入・ミズゴケの育成

- 幌向再生地に導入するための湿生植物、ミズゴケ属を確保するため、種苗採取、育苗・増殖方法の調査試験をH28より開始。継続的に導入を実施している。



# 湿生植物の導入状況

● 2017年（H29）から湿生植物の導入を行っており、これまで重点区域には約7,700株、一般区域には約3,000株の湿生植物を導入している。

導入時期	No	導入候補種	重点区域							計	一般区域							計		
			2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)		2024 (R6)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)		2023 (R5)	2024 (R6)
初期導入	1	ヤチヤナギ	400				160			560			30	40	30	150		60	310	
	2	イソツツジ		100					10	110									0	
	3	ゼンテイカ	100		190	53	57			400									65	65
	5	コバギボウシ	400							400	40	50	20	30	30		40	140	350	
	6	ワタスゲ	100		300	400				800					10			30	40	
	7	ミカツキグサ	400	400		400	200			1400			30	30	40	80	40	80	300	
	8	ハイヌツゲ		100						100								5	5	
	9	モウセンゴケ	200							200									0	
	10	ヌマガヤ	400	160						560								10	10	
	11	ホロムイヌゲ(トマリスゲ)	400	400						800									20	20
	12	ホロムイコウガイ (ホソコウガイゼキショウ)	200							200									0	
	中期導入	13	ツルコケモモ				89	240			329								0	
14		ホロムイリンドウ			105	89	90			284								0		
15		エソリンドウ			110					110							10	10		
16		ミツバオウレン			100					100								0		
17		ウメバチソウ			100					100								0		
18		オオバタチツボスミレ			100					100					7			7		
19		ヒメシャクナゲ				65	11	3		79						3		3		
20		ホロムイツツジ(ヤチツツジ)			75			20		95						8		9	17	
21		ホロムイクグ								0									0	
22		ホロムイチゴ(ヤチイチゴ)		100	300	400	100			900									0	
ミスロクゲ上導入 後期導入	23	コバイケイソウ								0					2			2		
	24	タテヤマリンドウ					30			30				30				30		
	25	ゴツマトリソウ				89				89				10	80	40	90	220		
	26	ショウジョウバカマ						5		5					5			5		
	27	ホロムイソウ								0						3		3		
	28	トキノソウ								0							100	100		
	29	サワラン								0							80	80		
	30	コバトシボソウ								0							80	80		
その他	31	ヤチスギラン								0					10			10		
	32	ノハナショウブ								0	40	150	20	40		30		17	297	
	33	カキツバタ								0		50	30	30	30	260	120	550		
	34	サウギキョウ								0	40		50	10	30		40	55	225	
	35	チヨウジソウ								0		40			30	30		70	170	
	36	ヒメシロネ								0					30			40	70	
	37	クサレダマ								0		30		10				3	43	
	38	サワシロギク								0		30							30	
	39	オトギリソウ								0				10					10	
	40	トモエソウ								0								10	10	
年度別合計			2600	1260	1380	1585	888	38	0	7751	120	350	180	200	247	458	423	1094	3072	

# ミズゴケの導入に向けた取組

- ・ミズゴケの導入はH30より実施し、これまで様々な方法で試験を実施してきた。
- ・これまでの知見から、草本・枯草による日隠効果の有効性や、開放水面との連続性確保により良好な結果が得られている。

## 導入方法

## 結果概要

- ・直接導入  
(掘り下げ、枯草被覆、みずみち対策)

- ・ピートモスポットでの導入

- ・G.L.-30cmまでの段階的な掘り下げ導入  
(掘り下げた縁部は直壁)

- ・G.L.-30cmまでのすり鉢状導入

- ・排水路沿いへの緩勾配導入

- ・ **多くが乾燥により衰弱。**  
草本や樹木によって日隠される箇所では比較的生存率が高い結果を示した。

- ・ **掘削深の浅い試験地は乾燥により衰弱し、深い試験地では冠水により衰弱する傾向が見られた。**

- ・ 導入初期に乾燥・強風による離散が見られたが、定着している個体も確認。

- ・ **湿潤状態を維持し、良好に生育している。**生育範囲の拡大も見られる。
- ・ タテヤマリンドウなどが定着し、開花も見られる。

